

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 22 日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-----------|
| 事業所番号 | 0172000184 | | |
| 法人名 | 株式会社 尚進 | | |
| 事業所名 | グループホーム ふきのとう | | |
| 所在地 | 〒047-0156 小樽市桜1丁目27番53号 (電話) 0134-54-7360 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ | | |
| 所在地 | 江別市大麻新町14-9 ナルク江別内 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年2月18日 | 評価確定日 | 平成22年3月9日 |

【情報提供票より】 (平成22年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|-----------------------|
| 開設年月日 | 平成 12 年 6 月 7 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 38 人 | 常勤 | 35人 非常勤 3人 常勤換算 19.3人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|---|-----|
| 建物構造 | 鉄筋 造り | | |
| | 3 階建ての | 全 | 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|---------------|
| 家賃(平均月額) | 30,000~40,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費 15,000 円 |
| 敷 金 | 有 (円) (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) (無) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1月当たり | | 35,000 円 |

(4) 利用者の概要 (平成22年 2月 18日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|----|------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 | 8 名 | 女性 | 19 名 |
| 要介護 1 | 2 名 | 要介護 2 | 5 名 | | |
| 要介護 3 | 7 名 | 要介護 4 | 6 名 | | |
| 要介護 5 | 7 名 | 要支援 2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 81.9 歳 | 最低 | 53 歳 | 最高 | 99 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---|
| 協力医療機関名 | 済生会小樽病院・西病院・三ッ山病院・たかむら歯科・市村歯科クリニック・常見医院 |
|---------|---|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小樽は山坂の多いところで、当施設も道央道のトンネルの上の住宅街の坂を上り詰めた石狩湾を一望できる所にある。10年前に賃貸アパートを改修し、改修を終えた階から1ユニットごとに開設した。両側の居室の通路が食堂と居間（ホール）という構造で、居室と東側の窓から外の景色が見える。1階には広い食堂や畳の部屋もあり、テレビも片隅に置かれ、ゆっくりに気兼ねせずに楽しむことができる。ベテランの職員が多く、利用者の心の機微に触れるケアと温かい処遇に支えられている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 行政と連携して認知症の理解を広める取組については、業務上の訪問や自己・外部評価を市に提出する機会に事業所の実情を伝えている。今年、地域包括支援センターの協力で「認知症サポーター養成講座」を開催予定している。施設での避難訓練については消防署の協力を得て、総合避難訓練、普通救命講習を実施した。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は主に管理者、計画作成者が行い、全ての職員が参加して各項目の内容や狙いを十分理解するまでには至っていない。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族代表3名、地域代表2名(町内会、民生委員)、地域包括支援センター職員が参加し、ヒヤリハットや事故報告など、出された意見は運営に生かされ、充実した会議になっている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はないが、家族の多くは、自由に気持ちよく話し合える雰囲気があると評価している。毎月刊行している「ふきのとう通信」で個別に写真を掲載しながら近況報告している。家族の意見・苦情については窓口を設け、気楽に寄せられる雰囲気を作っている。最近は重度化や終末期の対応についての相談が多くなっている。 |
| 重点項目③ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の小中学校の行事(学芸会・文化祭)に招かれ出席しているが参加できる利用者が限られてきている。 |
| | 中学生による雪明りのスノーキャンドル作りのボランティアも受け入れている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|--|--------------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」をモットーに利用者が当たり前の生活を送れることをケアの理念としている。 | ○ | 開設から10年が経過しており、これまでの理念を見直し、地域との関係を重視した理念について検討することが望まれる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員は事業所の理念を理解し、実践に向けて取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の小中学校の行事の学芸会や文化祭に招かれ出席しているが、参加できる利用者が限られてきている。中学生による雪明りのスノーキャンドル作りのボランティアの受け入れもしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価は主に管理者や計画作成者が行い、評価の表現が毎年同じ文章の繰り返しになっている。 | ○ | 自己評価は全職員が参加し、評価のねらいや活用方法を十分理解するため運営者、管理者、職員で話し合い、事業所の現状を把握し、更なるサービスの質の向上を期待したい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ヒヤリハットや事故について報告し、意見をもらっている。出された意見は運営に活かされている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 業務上の訪問や自己・外部評価を市に提出する機会に事業所の実情を伝えている。市の担当者の視察や訪問を受けながら、職員と交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月刊行している「ふきのとう通信」で個別に写真も載せながら近況報告をしている。訪問される家族にはパートナーの職員が報告をし、遠方の家族には金銭報告も兼ねて文書で送付し、緊急時には電話で連絡を取っている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見・苦情の窓口を設け、気楽に寄せられる雰囲気作りを行っている。意見・苦情等は書面に残し、ミーティングで職員への周知をしている。これまで運営に反映するような意見要望は無かった。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動の少ない施設である。ユニットによっては、重度化が進み、職員の異動でダメージを感じる利用者は僅かになっている。家族から異動のお知らせが無いという指摘もあり、退職があっても利用者には説明していない。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人と3ヶ月後の研修は各ユニットで行っている。年に数回の外部研修に参加し、報告書を提出し、内部研修に役立っている。一部の職員は、必要に迫られて課題を選択し外部研修に出席し、現場のケアの向上に努めている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 小樽市グループホーム協議会の研修に出席し、同業者と情報の交流をしている。施設間の相互訪問や人的交流はここ数年行っていない。 | ○ | 施設相互間の交流を行い、より介護度の高い利用者がある施設での実習で、理論と実践の向上を学び、情報交換しながら、サービス水準の向上に役立てることを期待する。 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所前の見学や利用者の皆さんと一緒に過ごす時間を設け、本人が理解をし、納得してからの入所となっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 多くの職員は共に支えあう関係に重きを置き、その場の対応に努力しているが、介護度の高いユニットでは苦勞している。食後の食器を進んで下げる人もいるが、寝たきりの人もいて、一律に支えあう関係の保持は難しくなっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意思表示できる利用者の希望・意向には応えている。困難さが増してきているが、表情や一言の発声から、気持ちを汲み取っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護支援専門員がセンター方式を採用し、本人・家族の意向や思いを反映した介護計画を作成し、職員全員で検討をし、一人ひとりの生き方に取り組んでいる。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6ヶ月ごとの見直しをしているが、毎日の気づきや急変したときには、看護師（非常勤）のアドバイスを受け、その都度見直しをし、家族にも状況説明を速やかに行っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院介助やなじみの理美容院の送迎を行っている。外出の希望にも応えている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の希望を十分に考慮している。急変時には、かかりつけ医師に症状を説明し通院や適切な指示を受けて対応している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | これまで4人の看取りを経験してきたが、重度化が次第に進み、家族の希望・意向から看取りが多くなる。ケアのあり方や職員の心構えについて全員が学ぶ気持ちがある。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 常に個人情報の遵守に立ち返り、学びを繰り返している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、希望に添うように支援している。利用者全員同じ行動を取ることが難しくなり、マンツーマン対応に苦慮している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理は専属の職員が行っている。作る楽しみができなくなる利用者が多くなり、食べることに喜びを持てるように工夫している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 昼食後からの入浴であるが、希望に沿った対応をしている。浴槽に入れなくなって、シャワー浴の人もいるが、やや熱めの足浴に満足している利用者もいる。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | リハビリを兼ねて編み物をする女性の利用者がいるが、趣味や趣向を楽しむことが出来にくくなってきている。ユニット内でゆったり個人の楽しみに没頭する広場が無いので、歩行リハビリも難しい。地下の「生き生きホール」でトレーニングする人は限られている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 日常生活に支障の無い利用者は、天気の良い日は見守り介助を受けながら散歩に出かける。冬は坂の頂上にある施設なので、歩行外出はできない。車で大型店舗に出かけて、楽しんでいる。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 施錠は夜間帯だけである。ドアの開閉時にチャイムがなり、出入りの確認ができる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルがあり、朝里消防署の協力を得て総合避難訓練、普通救命講習を実施した。1階の避難はしやすいが、2・3階は非常階段が螺旋状で寝たきりの利用者の対応は難しい。昨年12月にスプリンクラーが設置された。 | ○ | 消防署の協力を得て、利用者全員が参加する避難訓練や、夜・冬を想定した避難訓練を定期的に行い、災害時には地域住民の協力と支援が得られる取組を望む。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員は一緒にテーブルに着き、ゆっくりでも完食を促しながら、個々の様子を観察している。食事や水分の摂取は個人のシートに記録し、おやつするときにもお茶に限らず、紅茶・コーヒー・ジュースなどで、本人の好みに合わせて、水分の補給を工夫している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 両側の居室の通路が食堂と居間（ホール）という構造で、居室と東側の窓から外の景色が見える。1階には、広い食堂や畳の部屋もあり、テレビも片隅に置かれ、ゆっくり気兼ねせず楽しむことができる。2・3階は三角スペースが無く、ゆったりと寛げる場所が無いが、職員が常に声掛けをし、家庭的な雰囲気作りに努めている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には灯油ヒーターが設置されていて、大きな家具類を置いている利用者はいない。仏壇を持ち込み手を合わせる人もおり、全体が清楚で清潔な空間になっている。 | | |

※  は、重点項目。